

25 平成23年7月15日申請（平成23年（争）第7号）

（1）経過

平成23年	
7月15日	A社から、あっせんの申請（平成23年（争）第7号）。(⇒(2))
21日	委員会から、B社に対し、あっせんの申請があった旨の通知。
8月11日	あっせん委員（坂庭委員長、各務委員及び寺澤特別委員）の指名。
9月9日	B社から、答弁書の提出。(⇒(3))
28日	A社から、B社からの答弁書（9月9日付け）に対する意見書の提出。
10月6日	両当事者から意見の聴取。
11月11日	A社から、意見書の提出。
17日	B社から、A社からの意見書（9月28日付け）に対する意見書の提出。
12月8日	A社から、B社からの意見書（11月17日付け）に対する意見書の提出。
平成24年	
2月10日	両当事者から意見の聴取。 あっせん委員から、あっせん案の提示。(⇒(4))
2月16日	A社があっせん案を受諾。
2月23日	B社があっせん案を受諾。 あっせん終了。

（2）申請の概要

A社は、これまで、B社の地上アナログ放送の再放送を実施しており、平成23年7月24日の地上アナログ放送終了を前に、地上デジタル放送の再放送（期限を定めないもの）の実施を希望して、B社との間で協議を重ねてきたが、協議が調わなかった。

平成23年5月からは、B社からの提案もあり、激変緩和措置としての再放送（期限を定めたもの）の実施について協議を行ってきたが、B社が、地元放送事業者の了解が得られないことを理由に、再放送の実施に同意してく

れないため、協議が調わなかった。

そのため、B社のデジタル放送の再放送について、A社の業務地域の一部（以下「甲地域」という。）における激変緩和措置としての再放送の実施を、平成27年3月末まで同意してもらうことについて、あっせんを申請。

（3）答弁書の概要

地元放送事業者の了承が得られていない状態で再放送に同意することは、地元放送事業者との協調性を損なうおそれがあることから、再放送の同意は困難である。

（4）あっせん案の概要

ア B社は、A社が、甲地域において、B社のデジタル放送の再放送を、激変緩和措置として、平成26年9月末日（以下「激変緩和措置期限」という。）まで実施することについて、地元放送事業者の了承を条件とすることなく同意する。

イ A社は、激変緩和措置期限には、上記アにより行われる再放送を終了する。

ウ A社は、激変緩和措置期限後も継続して再放送の実施を要望する場合は、B社に改めて協議の申入れを行う。その場合において、両者は、激変緩和措置期限までの間、誠実に協議する。